

# 東洋陶磁学会 第四十二回大会のお知らせ

錦秋の候、会員の皆様には益々ご清祥の事と存じます。

平成二十六年度の大会を左記のとおり東京・日比谷で開催致します。奮ってご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

東洋陶磁学会

記

\*日時 平成二十六年十二月六日(土)・七日(日)

\*会場 千代田区立日比谷図書文化館 地下一階

コンベンションホール(大ホール)

(東京都千代田区日比谷公園一・四 <http://hibiyajp>)

\*テーマ 「〃陶磁の道〃 研究半世紀の歩みと展望

\*趣旨 一九六九年に『陶磁の道』を著す三上次男博士が、中世の東西交易路の海上ルートを〃陶磁の道〃と表現するのが相応しいと考え、提唱し始めて、およそ半世紀となるのに因み、関連の研究史と課題・展望を確認する。

\*日程

六日(土) 十二時三十分より受付 一時開会

・東洋陶磁学会常任委員長挨拶

大橋 康二

・記念講演「陶磁の道」

佐々木達夫

・研究発表

「三上次男先生と貿易陶磁研究会」

村上 勇

「有楽町一丁目遺跡出土、明暦の大火で罹災した陶磁器群」

水本 和美

・見学：千代田区立日比谷図書文化館 一階 特別展示室

「〃陶磁の道〃 研究の半世紀―三上次男コレクション陶片展」

\*三上次男コレクション陶片資料・有楽町一丁目遺跡出土品

・懇親会 午後五時～ 日比谷図書文化館 B1 Library Dining

七日(日) 午前十時十五分より受付 十時三十分より発表

・研究発表

「草原の陶磁の道―内陸アジアのモンゴル帝国時代の

遺跡出土の中国陶磁器―

弓場 紀知

「東南アジアの陶磁の道を学ぶ―一九八〇年代からの流れ」

坂井 隆

(昼食) 各自で

「アジアヨーロッパ間の陶磁器流通研究へのアクセス」

堀内 秀樹

「新大陸に向かう東回りの〃陶磁の道〃の

研究成果と最新情報」

野上 建紀

「東アジアにおける水中考古学研究史と

近年の沈船調査事例」

小川 光彦

\*費用

・大会参加費(参加者全員)

二、〇〇〇円

・懇親会費(六日・申込者のみ)

四、〇〇〇円

\*交通(千代田区立日比谷図書文化館)

・都営三田線「内幸町駅」A7出口/徒歩三分

・東京メトロ千代田線「霞ヶ関駅」C3出口/徒歩五分

・東京メトロ丸の内線「霞ヶ関駅」B2出口/徒歩五分

・東京メトロ日比谷線・千代田線「日比谷駅」A2出口/徒歩七分

・JR「新橋駅」日比谷口/徒歩十分



〔参考情報〕

\*「〃陶磁の道〃 研究の半世紀―三上次男コレクション陶片展」

主催：東洋陶磁学会・千代田区立日比谷図書文化館

会期：平成二十六年十一月二十九日(土)～十二月八日(月)

会場：千代田区立日比谷図書文化館 一階 特別展示室

\*入場無料/会期中無休

\*三上次男コレクション陶片資料・有楽町一丁目遺跡出土品展示

\*日比谷カレッジ 第二十八回 江戸歴史講座

「茶の湯 茶陶の伝来と〃陶磁の道〃」

日時：平成二十六年十一月三十日(日) 午後二時～四時

会場：日比谷図書文化館 地下一階 コンベンションホール

講演：竹内順一(永青文庫)「江戸期の茶陶」

資料紹介：手塚直樹(青山学院大学)「三上次男先生と陶片僕」

水本和美(東京藝術大学)

「有楽町一丁目遺跡と出土陶片の語る日比谷」

参加費：二、〇〇〇円(千代田区民五〇〇円)

問合せ・申込：千代田区立日比谷図書文化館

(施設代表) 〇三二五〇二二三四〇・E-Mail: college@hibiyajp

〔注意〕

・参加申込は十一月二十五日迄に、振込用紙にてお願い致します。

・発表の演題および順序が変更される場合がございます。

・「発表要旨」を大会前にホームページに掲載いたします。

東洋陶磁学会

一〇二〇〇七四 東京都千代田区九段南一・五・六

りそな九段ビル五階 KSフロア

電話・FAX 〇三二二三三九・一二七七

<http://homepage3.nifty.com/toyotoji/>